



小川 聖子
Shoko Ogawa
INTERVIEW

魅力と個性に磨きをかける
コーチングを展開

キャリアアップに遠回りはありません
すべての経験を糧に自分らしい生き方を！

歯科医院で働いていたとき、歯科衛生士たちの研修・指導をしていました。訓練することで技術は向上しますが、当時は先輩の後ろ姿を見て学ぶという風潮。でも、それじゃ上達も成長もしないし、職場の雰囲気も疲弊してしまう。どうすればいいのか…悩み続けました。そして「人を変えるのではなく、自分が変わるべき」と思うようになり、コーチングにたどり着きました。勉強して実践してみるとスタッフは驚くほど前向きになり、確かな手応えを感じ、以来コーチングを生業に。病院や幼稚園など女性が多い職場での研修では、「同じ立場で考えてもらえる」「身近な例えで自分ごととして考えられる」と共感していただき励みになります。コーチング後の変化をお見せしたいという思いから、写真撮影を取り入れたフォトコーチングも開始。わたし自身のキャリアをお話すると「遠回りしている」と言われることもありますが、すべての経験が必要だったと思っています。人それぞれ個性や魅力があるように、キャリアアップも人それぞれ。その人なりのキャリアを築けるように、コーチングでお手伝いしていきたいです。

現在の仕事(活動)とやりがい

コーチングをベースに①ビジネスコーチング②企業研修③フォトコーチング④コーチ養成をしています。企業には「ホスピタリティコーチング研修」において中長期的に関わり、コミュニケーション能力向上のための研修を通して、互いを高め合う組織風土づくり、企業のビジョンを現場で実践すること、自分と仲間のしあわせを実現することの3つを柱としています。1対1のコーチングは、スカイプセッションの他、コーチング後の輝いた表情を本人にお見せしたいという思いから、撮影と組み合わせた「フォトコーチング」を開発し、2011年から行っています。

女性が活躍する上で、
不足していること

研修で企業に関わる際、どの職種においても女性の就業支援については話題になっています。官民間問わず、働く女性を応援する具体的なサポートが増えるといいですね。そのためには、女性自身も具体的にどのようなサポートが欲しいのか意見を言えること。実際の現場において、お互いに建設的な意見を言い合える組織風土がまずは必要な場合は、研修でサポートすることも実際にありました。

PROFILE

1970年、千歳市生まれ。エンジェルコーチング代表。フォトグラファーとしても活動しており、小柄な体で大きな一眼レフカメラを持って、笑顔で撮影する姿は、周囲に元気を与える。札幌市男女参画センターでコーチングの講座も行っている。
ホームページ <http://angel-coaching.com/>





- ① 企業には「ホスピタリティコーチング研修」で中長期的に関わり、コミュニケーション能力向上をサポート
- ② 2012年から自身で撮影するフォトコーチング「プレシヤスフォト」をスタート
- ③ 「プレシヤスフォト」を体験した受講者たち。穏やかで自信あふれた表情になっている

ライフ 年表



18歳

歯科衛生士専門学校入学

20歳

歯科医院就職

29歳

歯科衛生士兼
マネージャーになる

で、マネージャー業務を経験すること
スタッフ養成で失敗を繰り返
し、コーチングにたどり着く

36歳

コーチングスクール入学

37歳

コーチ・講師として独立

42歳

フォトグラファーとして
の活動を開始

キャリアでの 忘れられないエピソード

研修はコミュニケーションを扱っていますが、その成果として雰囲気が良くなったという数値化できないことだけでなく、売上げが上がった、過去最高のお客さまの数を得られた、離職率が下がったという目に見える具体的な成果の報告をいただいたときは、心からやりがいとよろこびを感じます。

仕事と家庭の両立で 工夫していること

優先順位をつけて、todoリストを前日の夜につくるようにしています。また、自分にもコーチをつけて、思考と行動の整理をする時間を定期的にとっています。

プライベート(休日など)の 過ごし方

友だちとゆっくり食事を楽しむことがリフレッシュになります。自宅で過ごす時間も好きで、頭と心を緩めてのんびり過ごしたり読書をしたりしています。

女性が活躍すること についての意義

女性の強みである共感能力やコミュニケーション能力は、社内に留まらず社会的にも必要とされています。一人ひとりがその能力を自覚して発揮することは、企業のさらなる発展と、お客さまには商品やサービスに、より価値を感じられることに繋がり、さらには社会を豊かにすることだと考えます。

将来の 展望・目標

企業研修においては、ホスピタリティあふれるコミュニケーションをベースに一人ひとりがイキイキと働ける組織づくりを、個人においては一人ひとりの魅力や個性を引き出しカタチにすることをこれからも続けていきます。今後は、後進の育成や起業をめざす方々のサポートもしていきたいと考えています。誰もがチャレンジすることを楽しめる街になることを望みます。

後輩女性への メッセージ

「等身大の自分を知ること」をお勧めします。自分の強みや才能、リソースなどを自覚して自分を知り、的確な自己評価ができていれば、壁にぶつかっても乗り越えられる強さを持つことができます。他人と自分を比べずに、過去の自分と比較することで、次ももっといい仕事をしよう、自分の力で貢献しようという原動力に繋げていってください。